

# 経王御前御書

文永九年

五一歳

種々御送り物給くさくさび候たひ畢あわんぬ。法華經第八妙莊嚴王品と申すには、妙莊嚴王と浄徳夫人と申すきさき后は浄蔵・浄眼と申す太子に導かれ給ふと説かれて候。経王御前もうを儲けさせ給ひて候へば、現世には跡をつぐべき孝子なり。後生には又導かれて仏にならせ給ふべし。今の代は濁世じよくせと申して乱れて候世なり。其の上眼前に世の中乱れて見え候へば、皆人今生みなには弓箭きゆうせんの難に値しゆらって修羅道どうにおち、後生には悪道疑しかひなし。而るに法華經を信ずる人々こそ仏には成るべしと見え候へ。御覧ある様にかゝる事出来すべしと見えて候。故に昼夜に人に申し聞かせ候ひしを、用ひらるゝ事こそなくとも、科とがに行なはるゝ事は謂いはれ無き事なれども、古いにしえも今も人の損よぜんとは善よき言ことを用ひぬ習ひなれば、終ついには用ひられず世の中亡ほろびんとするなり。是偏ひとえに法華經釈迦仏の御使ひを責むる故に、梵天・帝釈・日月・四天等の責せめを蒙こうむりて候なり。

又世は亡び候とも、日本国は南無妙法蓮華經とは人ごとに唱へ候はんずるにて候ぞ。如何いかに申さじと思ふとも、毀そしらん人には弥いよいよ申し聞かすべし。命生きて御坐あわさば御覧有るべし。又如何に唱ふとも日蓮あだに怨あだをなせし人々は、先まづ必ず無間地獄むけんに墮ちて無量劫の後に日蓮の弟子と成なつて成仏すべし。恐々謹言。

日蓮花押

経王御前